



第5会場●4F 視聴覚室

■司 会/石田 祐子 山口県長門市教育委員会 派遣社会教育主事
満倉ひとみ 福岡県福智町立弁城小学校 校長

1 「開かれた学校」と「子どもの居場所」の結合 10:45～11:10

ー「あそびの城」と「ひしっ子エコレンジャー」プログラムー

上野 祥子（熊本県植木町） 植木町ファミリースポーツ・レクリエーション協会
菱形小学校 学校評議員

学校は「開かれた学校」を目指し、地域は子どもの健全な発達を希求している。学校評議員制度を核に子どもの居場所プログラムと学校開放の理念を結合。活動の中心組織は植木町ファミリースポーツ・レクリエーション協会と菱形小学校である。学校と地域団体の協力関係を確立し、ボランティアも組織して、学校の内外で子どものための定例活動および不定期の食育、環境保全、安全管理プログラムなど多様な分野で実践を展開している。

2 学校を拠点とした「子育て」、「子育て」支援プログラムの実際と運営 11:10～11:35

ーボランティアが作る子どもの居場所と体験活動ー

安藤 珠美（鳥根県益田市高津町） 高津ボランティアハウス・コーディネーター

高津ボランティアハウス・コーディネーターは21名で構成され、ハウスの活動企画・運営を担当している。拠点は高津小学校内の空き教室で、主たる活動は平日・休日の子どものための体験活動プログラムの創造と実践である。年間延べ9,500名の子どもが参加、延べ約1,300名のボランティアが支援している。指導時間帯は平日で14時から17時、休日は半日の「体験プログラム」を企画している。課題は完全「自主運営」のシステムづくりである。

3 年中開催・学校拠点型子育て支援プログラムの論理と方法 11:35～12:00

ー尾道市地域子ども教室の事業システムー

磯兼 智道（広島県） 尾道市教育委員会 社会教育主事

子ども教室は年間220日間の開催が最大の特徴。指導者は地域のボランティア人材。活動の拠点は学校と社会教育施設にまたがる。受益者負担の原則を導入し、地域の実情に応じて、活動内容は各種体験プログラム、安全の保障、異学年・異年齢の交流などを含んでいる。2教室から出発し、合併をはさんで現在は11教室に拡大している。

4 総括討論 12:00～12:30